

<自主的努力項目記入書式>

提携先	(株)オルター・トレード・ジャパン	記入日	2009/12/28
登録消費材名	エコシュリンプ（特大、L、M、むきみ、下処理済L）		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

現地における生産者（＝養殖池主）とATINA社との関係性の構築並びに深化に努めて参りました。シドアルジョにおいては、生産者との協議会を開くなど、頻繁な意見交換の場を設けるようにしております。グレシックにおいては、地域の特性上集荷業者を介した関係作りになりますが、徐々に養殖池主との直接的な対話の場を作れるよう、ATINAのスタッフが養殖池を訪れています。スラウエン島では、現時点では集荷業者を介したつながりのみとなっておりますが、シドアルジョやグレシックのような体制構築を目指してこれから基盤作りを行って参ります。

粗放養殖で育つエコシュリンプは、その成育状況や収穫量などが気象条件に大きく左右されます。そのため、必ずしも需要に応えられるだけの原料が集まるわけではなく、また特定のサイズだけを受け入れることも非常に難しい部分があります。このような条件を少しでも緩和するために、ATINA社において冷凍状態で在庫を持つ体制を作っておりますが、やはり状況に応じ供給の調整等をお願いせざるを得なくなることがございます。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

前年度は、ATINA社内における組織の大幅な改編を余儀なくされたため、体制の再構築が最優先課題となりました。そのような中で供給に間に合わせるために尽力致しましたが、天候状況の影響もあり、一部消費材（エコシュリンプむきみ）を供給停止せざるを得ない状況となりました。また、工場の衛生管理についても見直しを図り、拭き取り検査を導入してモニタリングを行うなど、食品工場としての環境改善にも着手致しました。

現在は新体制での運営も順調に行われ、また在庫管理方法の見直しなどから供給面においても安定化を図ることができました。工場の衛生管理につきましては、現在も継続的に実験を行いながら、管理方法の改善について模索しております。その反面、2009年は地元における生産者との活動が予定通りに行うことができませんでした。2010年以降は、この新体制の下でインドネシアの環境保全に役立つ活動をどのようにして行っていくかが大きな課題となっております。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

シドアルジョにおいては、生産者と一緒になって取り組んでいく池の生産性向上のための実験や、ATINA社の石けん工房立ち上げと地域への拡大が、現在取り組んでいく課題です。グレシックでは、現在の集荷倉庫を介した生産者との関わり方を、より生産者と近い関係作りへと発展させていくためのコミュニケーションの取り方が大きな課題である他、陸続きであるシドアルジョと同様に環境への取り組みを進めて参ります。スラウエン島では体制基盤としての集荷倉庫を新しく設立したことで、地域との関係作りを始めて行くことが当面の課題ですが、その先には、粗放養殖を守りながらマングローブ植林等を通じて環境破壊を食い止めていくという大きな目標があります。また、集荷倉庫における原料受入までの流れの中で、温度管理やトレーサビリティ管理、ならびに工程内の衛生管理等にまだ改善の余地がございますので、そちらについては随時可能なことから対応して参ります。